

山田 宏 著
全 2 冊

高校工業教育における教育課程の意図、実施及びその達成状況に関する研究

* 大空社出版 2026 年 2 月刊行

1

教育課程の意図と実際から見た 高校工業教育

——学習指導要領の策定経緯とその実施状況の歴史

B5 判 (182 × 256 mm) ・並製・カバー x+395 頁

図 31 枚、表 128 枚を掲載

978-4-86688-245-1

定価 (本体 9,000円 + 税)

2

卒業生の職業と生活から見た 高校工業教育

——教育の成果・効果の社会学

B5 判 (182 × 256 mm) ・並製・カバー x+359 頁

図 31 枚、表 135 枚を掲載

978-4-86688-246-8

定価 (本体 9,000円 + 税)

[著者]

山田 宏
やまだ・ひろし

1952 年生、71 年東京工業高等専門学校電気工学科中退、76 年東京大学教育学部教育学科卒業、76 年から 2012 年まで経済企画庁、国土庁、内閣府、通商産業省、臨時教育審議会事務局、参議院事務局、海外経済協力基金、総合研究開発機構で勤務、2023 年一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了博士 (社会学)

[著書]『高専教育の発見—学歴社会から学習歴社会へ』(矢野真和・濱中義隆・浅野敬一編、岩波書店、2018 年、第 6 章担当)、『境界線の学校史 戦後日本の学校化社会の周縁と周辺』(木村元編、東京大学出版会、2020 年、第 7 章担当)

近年、工業高校の人気低迷が報じられるが、高校工業教育の教育課程とその卒業生の職業や生活の実態をあまり調べない本(2冊)からは、その人気回復に向けた多くのヒントが得られよう。

【参考】朝日新聞 2026.2.3 (火曜日) 朝刊

工科高の人気低迷 イメージアップへ
都教委と業界団体連携「選ばれる学校」めざす

「都教育委員会は都立工科高校のイメージ改革に乗り出す。…都教委は 2023 年 4 月、工業高校を「工科高校」と改称し、IT や都市防災、環境、食品加工などについて学べる学科やコースを順次新設。産業界のニーズに応じて教育内容を充実させてきた。…それでも人気低迷に歯止めがかからなかった。…一方で、社会インフラを支える技術分野の人手不足は社会問題となっている。…「即戦力人材」を求め、工業系高校への求人は殺到。…昨年の全国の高校卒業生の求人倍率は、4・10 倍だったのに対し、工業系高校卒業生の倍率は 31・90 倍で過去最高となった。就職内定率は 10 年以上 99% が続いている。…小池百合子都知事も 1 月 5 日、都職員向けの新年あいさつで「本腰を入れて技術系人材を育成していくことに取組んでいきたい」と述べていた。」

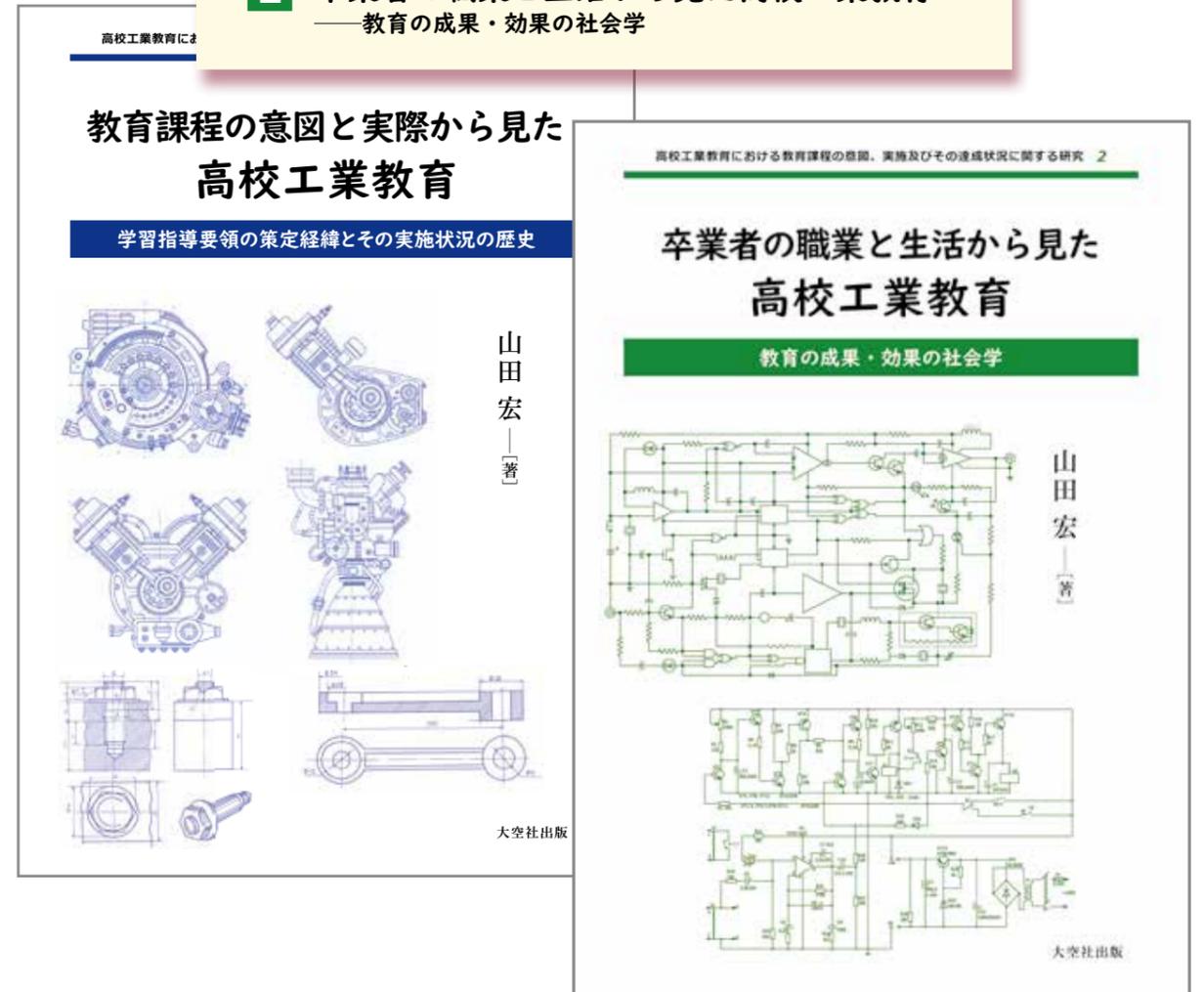
高校工業教育における教育課程の意図、実施及びその達成状況に関する研究

山田 宏 著 全 2 冊

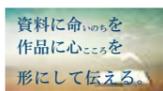
* 大空社出版 2026 年 2 月刊行

1 教育課程の意図と実際から見た高校工業教育
——学習指導要領の策定経緯とその実施状況の歴史

2 卒業生の職業と生活から見た高校工業教育
——教育の成果・効果の社会学



戦後から現在までの「高校工業教育」を教育 / 社会の歴史から詳細かつ徹底的に分析
これからの日本・日本人に求められる職業教育とライフコース像を考えるために
広く教育・研究・官界・実業界に必読の独創的研究



学術資料出版
大空社出版
www.ozorasha.co.jp

東京都東村山市秋津町 5-24-13-101
(〒189-0001)
TEL:042-306-3383 FAX:042-306-3384
eigy@ozorasha.co.jp

*お取扱

学術資料出版
大空社出版
www.ozorasha.co.jp

高校工業教育における教育課程の意図、実施 及びその達成状況に関する研究 全2冊

*大空社出版
2026年2月刊行

工業高校（高校工業教育）が労働力需要や入学者の特性の変化にも関わらず、その教育内容を適合させることにより、職業教育としての機能を維持し続けることができたのはなぜか。教育課程の3つの側面（意図されたカリキュラム、実施されたカリキュラム、達成されたカリキュラム）に着目した枠組みによって、具体的な事実に基づき豊富な図表を駆使して確認する独創的研究。

推薦の言葉

木村 元
青山学院大学特任教授
一橋大学名誉教授

高校工業科は、入学者の特性や労働力需要の変化への対応などの様々な困難を経ながらも、職業教育の機能が維持されてきたほぼ唯一の後期中等教育機関であろう。山田氏は、二書を通して、カリキュラムの意図・実施・達成の相へ着目し、戦後の職業教育の機能が維持されてきた要因を探るといった野心的な試みを行った。小学科の実態の解明をはじめ、職業教育としての機能を維持し続けることができた理由を卒業生のライフコースを交えながら実証的に明らかにしている。幅広い資料を駆使し、これまでの高校工業科を対象としたカリキュラム史研究の水準を凌駕した力作であるといえよう。

1 教育課程の意図と実際から見た高校工業教育

——学習指導要領の策定経緯とその実施状況の歴史

[B5判 (182 × 256 mm) x+395頁]

学習指導要領がいかに具体化されたのかを
多くの教育課程表を収集することにより解明

各時期における教育課程（教育内容）の意図について学習指導要領の策定過程を具体的に跡付けることにより確認するとともに、それがどのような形で具体化されたのかについて収集した各校の教育課程表に基づき整理、分析する。また、他の職業学科と比べた工業科の特徴である多くの小学科への分化について、小学科の役割と実態について確認するとともに、多様化に対する批判について検討する。

[内容] *詳細はホームページに掲載

序章 研究の課題とその方法

〈第I部〉新制高校発足から高度経済成長期までの高校工業科における教育課程の策定と実施

- 第1章 教育課程に働く原則・論理と実施されたカリキュラムに関するデータ
- 第2章 「共通性の原則」から「産業・職業の論理」と「工業科の論理」の確立へ
- 第3章 戦後復興から高度経済成長に向かう時期における教育課程の実施状況
- 第4章 工業高校生の学力の推移とその特徴

〈第II部〉高校工業科における生徒の実態に配慮した教育課程の策定とその実施

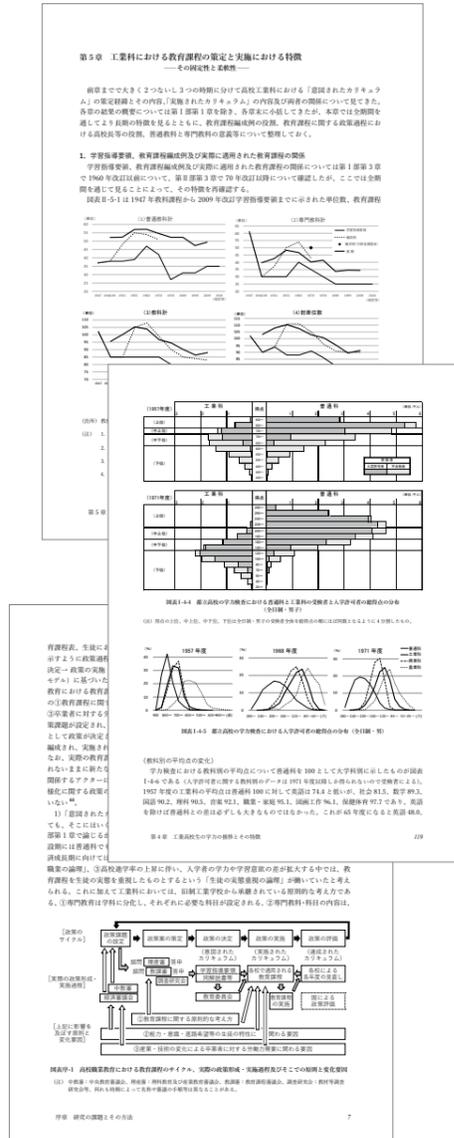
- 第1章 「生徒の実態重視の論理」への転換と教育課程編成の弾力化
- 第2章 「専門性」の意味付けの変更に生徒の主体性を引き出す教育課程へ
- 第3章 「生徒の実態重視の論理」に基づく教育課程の実施状況
- 第4章 「ものづくり」等を通じた教育課程の新たな展開
- 第5章 工業科における教育課程の策定と実施における特徴

〈第III部〉高校工業科における小学科の役割とその実態

- 第1章 小学科に関する制度とそこでの選択
- 第2章 高度経済成長期からその後の停滞期における小学科の設置状況
- 第3章 「小学科の多様化」をめぐる政策過程とその帰結
- 第4章 「特色ある学科・コース等」の設置の奨励と小学科の役割

結びに代えて 高校工業教育がその機能を維持し続けることができた要因

図 31 枚、表 128 枚を掲載



2 卒業生の職業と生活から見た高校工業教育

——教育の成果・効果の社会学

[B5判 (182 × 256 mm) x+359頁]

工業高校が卒業生の職業と生活に及ぼした成果と
その限界について
豊富なデータにより解明

高校工業教育の成果・効果、すなわちそこで知識・能力が習得され、その有用性が発現されるプロセスについて、卒業生のライフコース（職業と生活及びそこでの認識）とも関連付けて解明することを試みたものである。また、ここでは卒業生の出自や職業と生活に関して、工業科以外の高校教育や高専・大学等の他の機関による工業教育の経験者と比較することにより、後期中等教育（高校教育）における職業教育の機能と限界についても明らかにする。

[内容] *詳細はホームページに掲載

序章に代えて 「達成されたカリキュラム」を評価する観点と方法

〈第I部〉卒業生と企業による高校工業教育の習得度と有用性についての評価

- 第1章 卒業生の知識・技能の習得度と有用性の評価方法及びその資料
- 第2章 知識・能力の習得度と教科の有用性を規定するプロセスの検証
- 第3章 工業科卒業生の知識と能力の習得度と有用性についての評価

〈第II部〉工業科卒業生の職業経歴とその変遷

- 第1章 卒業生の職業経歴についての評価方法とそのための資料
- 第2章 工業科卒業生の就職と進学状況とその特徴
- 第3章 工業科卒業生の職業経歴の類型化
- 第4章 工業科卒業生の具体的な職業経歴
- 第5章 工業科卒業生が従事してきた具体的な職務とそこでの評価

〈第III部〉工業科卒業生の生活と認識

- 第1章 工業科卒業生の生活水準及び仕事と学校や社会等に関する認識
- 第2章 他の学科等の中高卒就職者及び他の工業教育機関卒の就職者との比較
- 第3章 高校工業教育が達成できたもの

終章 高校工業教育の機能とそこへ進学することの意味

図 31 枚、表 135 枚を掲載

